

5 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

群馬パース大学保健科学部は、その建学の精神に基づき、地域保健医療の発展に寄与する人材を養成するため、看護学科、理学療法学科、検査技術学科、放射線学科、臨床工学科を置き、次のとおり学部の教育課程の編成方針を定めます。

1. 保健科学部の教育課程は、教養科目群、共通基盤科目群、専門基礎科目群、専門科目群から構成される。
2. 教養科目群は社会人としての教養、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるため、「人と社会及び自然の理解」の科目群と「情報と言語の理解」の科目群に大別された広範な科目を5学科共通科目として開設する。
3. 共通基盤科目群は、初年次において大学での学習に対する準備状態を整え、専門領域の学習への関心と意欲を高めるための科目を開設する。また、今日の医療において必須事項であるチーム医療に関する意識を高めるための科目を配置する。
4. 専門基礎科目群は、医療専門職を養成する5学科それぞれに展開される専門領域の理論、技能の習得のための学術的基盤となる科目を開設する。
5. 専門科目群は各学科の専門領域とそれに関連する理論、技能を学ぶ科目を開設する。
6. 各科目は「知識・理解」、「思考・判断」、「技能・表現」、「関心・意欲」、「態度」の要素からなる本学のディプロマ・ポリシーを達成するよう、4年間を通して体系的に配置する。さらに、これら5つの要素を総合的に発揮することによる高い実践力を獲得するため、専門科目群に実習科目を置く。

各学科の教育課程は次のとおりです。各年次の方針に基づき段階的に編成します。

看護学科

- ・1年次には4年間の学習の基盤をつくる。教養科目、共通基盤科目、専門基礎科目及び看護学の概論を学習することにより、看護の入口に立ち、深みと広がりを理解し、主体的に学習に取り組む姿勢を身につける。
- ・2年次には専門科目の領域別各論を学ぶ。専門知識の修得に基づき思考・判断の力を身につける内容へと展開していく。
- ・3年次の前期は講義・演習により看護の基本技術を学ぶ。後期は臨地実習により知識・技術の統合を図り実践力を高める。
- ・4年次には在宅看護学実習、総合実習を通して4年間の学習の統合を図る。さらに、看護学の現代的課題と展望を学び、生涯にわたる探求の礎とする。また、専門科目に公衆衛生看護学、助産学の科目をおき、選択により保健師、助産師の専門知識・技術を修得する。

理学療法学科

- ・1年次には社会人としての幅広い理解や医療従事者としての態度を養い、地域や社会へ貢献する姿勢を獲得する。
- ・2年次には理学療法士の専門教育に直結する基礎的知識と専門職として適切な分析に基づく科学的洞察力を習得する。
- ・3年次には理学療法士としての高度な思考と基本的技術を習得すること、評価学実習を通して高い倫理観を持ち、専門職として社会貢献する意欲を獲得する。
- ・4年次には総合臨床実習を通してこれまで身につけた理学療法士としての知識、技術、態度を統合して活用でき、専門分野の発展に寄与する思考や意欲を獲得する。

検査技術学科

- ・1年次には豊かな教養と医療人としての職業意識の育成を目指し、保健・医療に携わるものとして共通理解しておくべき知識や臨床検査技師としての専門基礎知識を学ぶ。
- ・2年次には多様な疾病、病態に沿った臨床検査を実践する上で必要となる知識と技術の総論と各論を展開し、系統的・体系的に学習する。
- ・3年次には専門的知識、実践的検査技術を系統的に習得できるように体系づけ、実習を多く取り入れながら効率的・効果的に学習する。
- ・4年次には実践的な高度な知識と技術の習得を目指し、「臨地実習」及び「卒業研究」を通して、将来の医学・医療の発展に貢献できる評価能力及び研究能力を養う。

放射線学科

- ・1年次には、社会人としての幅広い知識や医療専門職としての知識・態度を養い、地域や社会へ貢献する姿勢を獲得する。
- ・2年次には、放射線学の基礎に関連する物理学、計測学、解剖学の基礎的知識を獲得し、診療放射線技師として必要な知識・技術・態度の基盤を形成する科学力を習得する。
- ・3年次には、診療放射線技師の臨床実践での高度な思考と基本的技術を習得し、実験・演習を通し高い論理的・科学的思考を培い、放射線専門職としての責任と安全管理に対する能力を獲得する。
- ・4年次には臨地実習を通して診療放射線技師としての知識、技術、態度を統合して臨床実践で活用でき、専門分野の発展に寄与する科学的思考や倫理観を獲得する。

臨床工学科

- ・1年次には社会人として必要な教養を身に付け、臨床工学の概要と医学・工学の基本となる知識・技術を学ぶことにより医療者としての基礎をつくる。
- ・2年次には臨床工学に必要な臨床医学と理工学の基礎知識を学び、両者を有機的に統合して医療機器に応用するための知識・技術を学ぶ。
- ・3年次には講義で学んだ理論・知識・技術を統合させ、医療技術の提供に必要な実践的知識と技術を身に付ける。さらにチーム医療の一員としての臨床工学技士の責任と役割の理解を深め、医療者としての自覚を育成する。
- ・4年次には習得した知識や技術を整理し、連携させることにより総合的な理解を深め、卒業研究を通して創造的な研究を行う能力、問題解決能力を養う。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

群馬パース大学は、建学の精神に基づき保健医療専門職の質を高め、地域保健医療の発展に寄与することを教育の目標に掲げ、ここに、本学の学士課程に共通する学位授与の方針を定めます。

- 【知識・理解】 ・保健医療専門職としての基礎的知識と、社会人としての教養を身につけている。
・多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している。
- 【思考・判断】 ・保健医療分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる。
- 【技能・表現】 ・先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供することができる。
・チーム医療を実践するための、コミュニケーション能力を身につけている。
- 【関心・意欲】 ・生涯にわたって専門分野を探求し、その発展に貢献する意欲を持っている。
・人と社会に深い関心を持って、地域の保健医療に寄与できる。
- 【態度】 ・人権を尊重し、高い倫理観をもって社会に貢献する姿勢を身につけている。

アドミッション・ポリシー

入学者受け入れ方針

群馬パース大学保健科学部は、地域社会の中で求められる、豊かな教養と人間愛を兼ね備えた質の高い保健医療専門職の育成を目的としています。その具現として、体系的な学内講義・演習プログラムと、学外（医療機関や介護福祉施設など）での臨地・臨床実習を通じて、人権尊重の理念、高い倫理観、社会人としての教養を基盤とし、コミュニケーション能力、情報処理能力、問題解決能力、保健医療分野における基本的知識・科学的洞察力・判断力・専門技術、生涯学び続ける姿勢を総合的に育成します。そして、各学科の専門分野における学問の探求とともに、国家試験受験資格の取得に必要な学習を網羅し、実験・実習を含む実践能力の育成に重点を置いています。これらの学習に熱意を持って取り組み、その意志を最後まで貫くために、本学部で学ぶ学生には、人に対する思いやり、相手の立場に立つて物事を考え調整していける力、保健医療を学びたいという強い意欲を持つことを求めます。さらに、本学部での学習の基礎となる十分な学力を備えていることを求めます。

このような力を十分に身に付けるために、次のようなことをしっかりと学んでおくことを推奨します。

○ 高等学校における教科・科目の学習について

● 国語・英語

コミュニケーション能力や学習の定着に結び付く基本的な読解力、聞く力、話す力、書く・見せるなど多様な表現力、論理的思考力をしっかりと身に付けましょう。

● 数学

数学Ⅰ及び数学Aの数と式、確率、図形、関数についての学習を通じて、基本的な計算技能を身に付けるだけでなく、さまざまな条件を読み取って正解を導き出せる論理的思考力や表現力、課題解決能力を養いましょう。理学療法学科、放射線学科、臨床工学科は数学Bの学習も推奨します。

各学科の専門性により以下の科目の学習を推奨します。そのことから人の身体のしくみや働き、健康生活に対する関心をより深めていきましょう。

全学科

物理基礎、化学基礎、生物基礎の学習内容をしっかりと習得して入学することを推奨します。生物において、以下の項目の基礎的内容を習得して入学することを推奨します。

項目：細胞、分子、代謝、遺伝、生殖、配偶子、神経系、生態系、生物多様性、生物の進化

理学療法学科 放射線学科 臨床工学科

物理において、以下の項目の基礎的内容を習得して入学することを推奨します。

項目：様々な運動、波（水面、音、光）、電気と磁気、原子

検査技術学科 放射線学科

化学において、以下の項目の基礎的内容を習得して入学することを推奨します。

項目：物質の状態と平衡、物質の変化と平衡、有機化合物の性質と利用、高分子化合物の性質と利用

※上記理科の項目に示す学習内容については、高等学校学習指導要領記載の学習内容を使用しています。お使いの教科書により表現や章立てが一致しない場合がありますので、お使いの教科書ではどの章がどの項目に該当するか、科目担当教員に確認することをお勧めします。

○ 日常生活、学校生活、社会活動等について

生活習慣や文化・スポーツ活動経験、地域社会での他者との関わりなどから、「主体的に学ぶ態度」や「多様な人々との協働を通して身に付く思いやりと奉仕の心」といった資質の形成に努めましょう。

このような入学者に求める学生像とそのために必要な準備を、次に示す各学科のアドミッション・ポリシーでは、さらに具体的に示しています。そして、このような学生との出会いを果たすために、本学の入試では、本学が実施する学力試験や大学入試センター試験での教科・科目の成績だけでなく、調査書、マッチングシート、志望理由書、面接、グループディスカッションなどを組み合わせて、志願者の知識・技能、それらを活用した思考力・判断力・表現力、そしてこれらを本学での学習においてさらに主体的に学び高めていく態度や、多様な人々との協働のなかで発揮できたり学び高め合えたりできる素養が備わっているかなど、多面的・総合的に評価します。

○ 看護学科

看護は、人々の健康生活を支援する活動で、人の命と向き合う仕事です。そのため大学4年間では、人体のしくみと働き、病気の成り立ち、健康生活の維持増進を支援する方法とシステム、病気や障害のある人の療養と生活を支援する方法など多くのことを学びます。講義、演習、実習をとって学習し、卒業時には看護師、保健師、助産師の国家資格取得を目指します。以上の学習を全うすることのできる、次のような人を求めています。

求める人材

- **人が好きで、人を思いやり、人を援助することに労力を惜しまない人**

- **相手の立場に立ってものごとを考えることのできる人**

看護は病気や障害で心や身体が弱っている人を助け支える活動です。健康な人が病気で苦しんでいる人を理解するには、その人の立場に立ってその人の痛みや苦しみを推察し理解することが不可欠です。その努力ができるか否かが鍵です。

- **看護学に興味をもち、学ぶ意欲にあふれ、主体的に学習する姿勢のある人**

入学したときから毎日夕方6時近くまで授業があります。予習・復習が重要なのは当然ですが、わからないこと、理解できないことを積極的に調べる姿勢が求められます。

○ 理学療法学科

理学療法学科では4年間の学習の中で、特に「基本」を重視し、問題解決能力を向上させることで生涯にわたる学習心を涵養し、学生同士や教員とのディスカッション、コミュニケーションを多く取り入れることにより、協働の意味やチームワークの大切さを学びます。社会からの期待に応え、貢献できる理学療法士を育てるため、次のような人を求めています。

求める人材

- **人が好きで、人を思いやり、人を援助することに労力を惜しまない人**

医療が対象とするのは人であり、また多職種との協働作業によるチームワークが大切です。どんな人ともスムーズにコミュニケーションをとることが必要とされます。

- **明るく元気で、向上心のある人**

プロの医療職になるわけですから、まわりを明るく出来る元気さと、深く人間を理解し常に向上しようとする意識が求められます。

- **学ぶ意欲、挑戦する意欲があり、主体的に学習する意志のある人**

医学も医療も日進月歩です。人や社会に興味を持ち、与えられて学ぶのではなく主体的に学ぶ姿勢が求められます。

- **理学療法を通じて社会に貢献しようとする強い意志を持っている人**

人の人生に大きく関わる可能性のある職業であり、高い人間性、倫理性、知識、そして技術が求められます。それだけに、「面白み」や「やり甲斐」もあるといえるでしょう。社会から期待される役割も、次第に大きなものになっています。

○ 検査技術学科

建学の精神及び目的である「豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保健医療専門職の育成」に基づき、検査技術学科においても医療従事者としての生命の尊厳を理解し、相手の立場を慮り、思いやりの心を持つとともに、高い倫理観を備えた人材を養成したいと思っています。また、国家資格を取得するための教育ではなく、豊かな教養と実践的な知識と技術能力を身に付け、検査値から病態を推測し診療支援ができる質の高い臨床検査技師、さらには**生命科学や検査技術学を生かし多様な分野で貢献できる人材の育成を目的としていますので、意欲のある次のような人を求めています。**

求める人材

- **“人”を思いやる心を持ち相手の立場に立って物事を考えることができる人**

医療は常に患者中心です。病む患者の立場に立って物事を考え行動することが大切です。

- **“臨床検査”という学問と技術を学び医療に貢献しようとする意欲のある人**

臨床現場では検査値から病態を推測し診療支援ができる質の高い臨床検査技師が要求されています。そのためには“臨床検査”を学問としてとらえ、専門的知識及び技術を積極的に学ぶ姿勢が必要です。

- **社会に対し積極的に関わり、生命科学や検査技術学を生かし多様な分野で貢献しようとする意欲のある人**

臨床検査技師は医療機関で活躍する以外に、生殖医療分野における臨床エンブリオロジスト、科学捜査研究におけるスペシャリスト、製薬・試薬関連企業での研究開発など、これまで以上に幅広い分野での活躍が期待されています。そのためには、検査技術学の専門的技術が応用できるよう、科学的な視野のもと幅広い知識を学ぶ姿勢が必要です。

- **協調性があり、独創性と粘り強さで問題を解決しようとする人**

臨床現場ではチーム医療が大切であり協調性が要求されます。また日常検査では、様々な異常検体に遭遇しますので、その異常値のメカニズムを積極的に解明しようとする姿勢が必要です。

○放射線学科

放射線学科は、質の高い臨床画像を撮影できる能力と読影能力に長ける診療放射線技師として多職種との協働と連携からなるチーム医療を推進できる人材、さらに環境放射線における情報提供や原子力災害時における救援活動など社会貢献できる人材の育成を目指します。そのための学習は、放射線技術と医療技術の分野だけでなく、理工学分野、情報学分野、リスクマネジメント、コミュニケーションスキルなど幅広く学び、様々な技術革新に対応するための基礎的な知識と臨床応用技術を習得していきます。保健・医療・福祉のみならず、環境という新たな現場にも対応し、チーム医療を推進できるメンバーの一人として問題発見、問題解決能力を兼ね備えた診療放射線技師として活躍する人材へと成長していくための学習に情熱を持って取り組める、次のような人を求めています。

求める人材

●“人”を思いやる心、労る心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人

診療放射線技師の仕事の多くは医療機器を通して患者と接しますが、患者その人のことを思いやり、労る心がとても大切です。

●生命科学や放射線学を生かし多様な分野で貢献しようとする意欲のある人

放射線は、安全に利用することによってがんの予防や早期発見に役立ち、私たちの健康生活を維持・向上するための有用なものの一つです。放射線学を正しく学び、チーム医療や社会貢献に関わってきたいという意欲を持って、大学での学習に取り組んでほしいと思います。

●学ぶ意欲、挑戦する意欲があり、粘り強く主体的に学習する意志のある人

医療の仕事は日々進歩、発展していきます。ときには理解を超える難しい場面にも遭遇します。大学で学ぶことへの意欲だけではなく、新しいことにも挑戦し、自分を見失うことなく生涯学んでいく姿勢が求められます。

●社会に対し積極的に関わり、コミュニケーションを大事にできる人

コミュニケーションが十分に取れていることは、大学での学習を進めるうえでも、地域社会で生活していくうえでも、職業人として多職種との協働と連携していくうえでも、とても大切なことです。

○臨床工学科

臨床工学科は、臨床工学の知識、技術を身に付けるにとどまらず、医療人として積極的に社会参加できる精神を培うとともに、生命倫理や人間に対する尊敬心が幅広く持てるよう、人間形成を重んじた臨床工学技士の養成を目指しています。そのためには基礎医学、臨床医学はもとより、物理学、化学、電気、電子、機械、材料、情報などの理工学を習得して、医療機器や臨床工学に関する知識、技術などを広範囲に学習します。さらに、医療機器の適正使用や安全使用のため、さらには医療機器の開発設計にも貢献できるよう、予防医学、診断学、治療学、看護学、保健学、リハビリテーション学など関連分野の教育・研究からも学習していきます。以上の学習を全うすることのできる、次のような人を求めています。

求める人材

●“人”を思いやる心、労る心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人

医療の中心は患者であり人です。臨床工学技士は医療機器を介して直接患者と接する仕事です。いつも病める人のことを思いやり、労る心がとても大切です。

●臨床工学を深く学び、チーム医療及び医療の質に貢献しようとする意欲のある人

臨床工学を通じて医療に携わることは、治療、診断、検査、看護、リハビリテーションなど、あらゆる医療の場面における安全を確保することや質の向上に貢献していくことです。この仕事に尊さと意義を見出し、大学での学習に意欲を持って臨んでほしいと思います。

●学ぶ意欲、挑戦する意欲があり、粘り強く主体的に学習する意志のある人

医療の仕事は技術革新とともに日々進歩、発展していきます。新しいことにも挑戦し、常に向上していこうとする意志と姿勢が求められます。

●社会に対し積極的に関わり、コミュニケーションを大事にできる人

保健医療専門職としてのマナーとモラル、高い倫理観に基づく適切な判断力、洞察力、分析力といった資質が培われる元には、大学での学習においても、地域社会での生活においても、他者との関わりや社会環境と接することが必要です。コミュニケーションを大事にしていきましょう。

○建学の精神

*Paz*は平和を意味するポルトガル語、パース(*Paz*)に由来します。

同時に*Paz*にはこの3文字を頭文字とする*Pessoa*(個性)、*Assistencia*(互助)、*Zelo*(熱意)の意味が与えられています。

Paz (平和) 平和で公正な社会の発展

Pessoa (個性) 個人の尊厳と自己実現、

Assistencia (互助) 多様な人々の共存と協調、

Zelo (熱意) 知の創造、

への貢献

を含めた生活環境づくりに医療専門職として参加し、十分に支援できることを目指します。

■ 理学療法学科

いかなる障害を持つ人に対しても、人としての尊厳と権利を認識できる真摯で柔軟な心を持ち、身体に障害を持つ対象者が自分らしく活動し、社会へ参加するという目的のために、多様で最新の理学療法の知識と技術を求め、それらを駆使して、運動や動作能力の向上を図ることができる人材養成を目指します。

急性期から回復期、維持期リハビリテーションにおいて活躍できるように、基本となる理学療法の知識と技術を幅広く学習し、多職種連携の中で実践し貢献できる能力を培うことを目指します。さらに、リハビリテーション分野にとどまらず、健康維持・増進に貢献できる力を養うことを教育目的としています。

■ 作業療法学科

年齢の差異や障害の程度に関わらず、対象者が自分らしく人生を送るよう支援する作業療法を学び、仕事・生産的活動・遊び、余暇活動、日常生活活動からなる作業を求める人間を多側面から理解し、多様な臨床現場や地域社会で求められる分野において、作業療法の専門性と知識を生かして柔軟に活躍できる人材養成を目指します。

対象者や家族、他職種との適切な対人関係を作るコミュニケーション能力、協調性を基盤とした多職種連携を図ることのできる能力、求められる問題の解決に向けて問いを立て続ける意識、複雑な人間行動を理解するために論理的に思考する科学的視点と対象者の個別で多様な生活を洞察する力、作業療法の発展と社会に貢献する活動や研究に参加しようとする能力を培うことを教育目的としています。

■ 言語聴覚学科

高いコミュニケーション能力を有し、他者や地域に貢献する意識、新たな課題や未知の課題を創造的に解決しようとする意欲、さらに専門知識・技術を生涯にわたって学習し続ける倫理観を有する人材養成を目指します。

言語聴覚士の役割の理解に基づき、人が地域で生活する視点に立ち、高次脳機能障害・言語発達障害・運動系障害及び聴覚系障害を持つ対象者のコミュニケーション能力の評価はもとより、活動、地域・社会参加の生活機能を多面的に支援でき、また、その方法の開発に関わろうとする姿勢を培うことを教育目的としています。

4 ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

保健科学部 ディプロマ・ポリシー

保健科学部の教育目的に基づき、学生が卒業時に身につけるべき知識や能力を次のように定めています。これらを身につけたことを卒業要件とし、学位を授与します。

1. 人権を尊重し、高い倫理観をもって社会に貢献する姿勢
2. チーム医療を実践するための、コミュニケーション能力と協調性
3. 保健医療専門職としての基礎的知識と技術、及び社会人としての教養
4. 保健医療分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる能力
5. 生涯にわたって専門分野を探究し、その発展に貢献する意欲と姿勢

■ 看護学科 ディプロマ・ポリシー

看護学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時まで身につけるべき知識や能力を次のように定めています。

1. 社会人としての教養と人の健康にかかわる幅広い知識に裏打ちされた、看護実践に必要な基本的知識
2. 看護の諸課題を解決するための科学的思考力及び判断力
3. 安全で的確な看護の基本的援助技術
4. 多様な人々と協働して課題を解決する調整力及びリーダーシップ

5. 生涯にわたって研鑽し続ける姿勢

■ 検査技術学科 ディプロマ・ポリシー

検査技術学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時に身につけている知識や能力を次のように定めています。

1. 臨床検査で求められる基本的知識及び技術を修得し、これを実践の場で活用することができる能力
2. コミュニケーション能力を生かしチーム医療へ貢献する能力
3. 検査技術学に関する課題等の発見とその解決に向け、科学的根拠に基づいた思考や適切な判断をする能力
4. 幅広い教養と医療専門知識を身につけ、多様な価値観の認識と異文化を理解し、グローバル社会に適応できる能力

■ 放射線学科 ディプロマ・ポリシー

放射線学科では、科学的応用技術をとおして、対象である尊厳と人間愛を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時まで身につけている知識や能力を次のように定めています。

1. 先進・高度化する専門分野の基本的技術を実践できる問題解決型臨床医療技術力
2. 保健医療専門職としての基礎的知識と医療人としての教養と協調性をもつ医療コミュニケーション力
3. 多様な情報を適切に分析し、放射線の管理、防護、制御技術をとおして、医療安全に寄与する実践力や研究能力
4. 人と社会に関心を持ち、自らの医療技術力を応用し、様々な分野で貢献する活動力

■ 臨床工学科 ディプロマ・ポリシー

臨床工学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時に身につけている知識や能力を次のように定めています。

1. 医工学分野の基本的知識及び展開される医療分野に対応できるスキルを身につけ、実践に活かす能力
2. チーム医療の一員として多職種と連携し、全人的医療の実践及び医療安全の確保に貢献できる能力
3. 思考力・洞察力・判断力を身につけ、医療分野における諸課題について国際的知識水準を背景に解決する能力
4. 異なる文化を理解・尊重し、国際的視野を持って考察できる能力

■ リハビリテーション学部 ディプロマ・ポリシー

リハビリテーション学部の教育目的に基づき、学生が卒業時まで身につけるべき知識や能力を次のように定めています。これらを身につけたことを卒業要件とし、学位を授与します。

1. 倫理観を持って障害の有無にかかわらず、人間の個性と尊厳を尊重する姿勢
2. 人間や社会に関する幅広い教養に根差し、リハビリテーションを取り巻く諸問題を認識できる能力
3. リハビリテーションにおける専門領域に必要な基本的知識と技術
4. 多様化する地域社会の諸問題を理解し、多職種と連携してリハビリテーションを実践できる能力
5. 自己研鑽に励み、人格的成長を目指す姿勢

■ 理学療法学科 ディプロマ・ポリシー

理学療法学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時まで身につけている知識や能力を次のように定めています。

1. 理学療法に必要な自然科学の学びだけでなく、人間が生み出した文化や歴史、社会の動きと仕組み、生命倫理、コミュニケーションの学びを積み重ねた豊かで幅広い教養
2. 理学療法の実践に向かうための必要な基礎医学、臨床医学、理学療法学の基本的知識及び技術
3. 地域に根差したリハビリテーションの必要性和多職種連携による問題解決の重要性の理解
4. 自己研鑽に励み、自ら疑問や課題を設定し、問題解決のために調査・検討・分析できる能力

■ 作業療法学科 ディプロマ・ポリシー

作業療法学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時まで身につけている知識や能力を

次のように定めています。

1. 心身の障害の有無によらず、家族、多職種との適切な対人関係を作るコミュニケーション能力と協調性
2. 複雑な人間行動を理解するために論理的に思考する科学的視点と対象者の個別で多様な生活を洞察する能力
3. 求められる問題の解決に向けて、問いを立て続ける能力
4. 作業療法学の発展と社会に貢献する活動や研究に主体的に従事しようとする姿勢

■ 言語聴覚学科 ディプロマ・ポリシー

言語聴覚学科では、倫理観をもって人間の個性と尊厳を尊重する姿勢に加え、学生が卒業時まで身に付けている知識や能力を次のように定めています。

1. QOLの向上を支援するための言語聴覚療法学に必要な基本的知識・技術
2. リハビリテーションに関わる多職種、家族、地域住民とのコミュニケーション能力と協調性
3. 新たな課題、未知の課題に取り組み解決しようとする姿勢
4. 人間の個性と尊厳を尊重し、言語聴覚療法に必要な知識と技術を生涯にわたり学習しようとする倫理観

5 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

保健科学部 カリキュラム・ポリシー

保健科学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、看護学科、検査技術学科、放射線学科、臨床工学科のそれぞれの専門性に応じてカリキュラムを編成しています。その教育課程は、教養科目群・共通基盤科目群、専門基礎科目群、専門科目群から構成されています。

1. 教養科目群は社会人としての教養、問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるため、「人と社会及び自然の理解」の科目群と「情報と言語の理解」の科目群に大別された広範な科目を4学科共通科目として配置しています。
2. 共通基盤科目群は、「大学の学びの基盤」として、大学の学び入門、大学の学び―専門への誘い―、多職種理解と連携の科目を4学科共通必須科目として配置しています。
3. 専門基礎科目群は、医療専門職を養成する4学科それぞれに展開される専門領域の理論、技能の習得のための学術的基盤となる科目を配置しています。
4. 専門科目群は各学科の専門領域とそれに関連する理論、技能を学ぶ科目を配置し、さらに高い実践力を獲得するため、臨地実習の科目を配置しています。

■ 看護学科 カリキュラム・ポリシー

看護学科ではディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 看護の基盤となる幅広い教養を身に着ける教養科目群、主体的に学習に取り組む姿勢を身につける共通基盤科目を、1年次を中心に配置しています。
2. 人間、健康及びそれらに関わる環境を理解する専門基礎科目群を1年次から2年次に配置し、専門科目を学ぶため準備を整えます。更に専門基礎科目と臨床看護を統合する科目を4年次に配置し、根拠に基づいた科学的思考力の強化を図ります。
3. 看護学専門科目は講義科目・演習科目・実習科目のすべてを1年次から配置し、看護への興味、関心を段階的に広げます。
4. 基礎看護学、並びに臨床看護学の各領域の基本構造は、いずれも講義科目、演習科目、実習科目をさせ、効果的に学習が進むよう配置されています。
5. 4年次には在宅看護学実習、総合実習、卒業研究を通して4年間の学習を振り返り、その統合を図るとともに、生涯にわたる看護の探求の基礎を築きます。
6. 専門科目に公衆衛生看護学、助産学の科目をおき、選択により保健師、助産師の専門知識・技術を修得できます。

■ 検査技術学科 カリキュラム・ポリシー

検査技術学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 幅広い教養を修得するため、教養科目群、専門基盤科目群を中心に学びつつ、医療専門職としての意識を高めるための専門基礎科目群に加え、「機器分析化学」、「医動物学」といった専門科目を必修科目として1年次から配置しています。
2. 多様な疾病、病態に沿った臨床検査を理解する上で必要となる知識と技術を修得するため、専門科目群の必修科目を2年次から多く配置しています。
3. 専門的知識、実践的検査技術を系統的に修得できるよう体系づけ、専門科目群の学内実習の必修科目を3年次に多く配置しています。
4. 実践的な高度な知識と技術を修得するための「臨地実習」と将来の医学・医療の発展に貢献できる評価能力及び研究能力を養うための「卒業研究」を4年次に配置しています。

■ 放射線学科 カリキュラム・ポリシー

放射線学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 自然科学の基礎、医学系科目や医療専門職としての医療コミュニケーションスキルを学ぶための専門基礎科目、大学の学び方を1年次で配置しています。
2. 放射線学の基礎に関連する物理学、計測学、解剖学、診療放射線技師として必要な知識・技術・態度の基盤を形成する科学力を習得する科目を2年次に配置しています。
3. 診療放射線技師の臨床実践での高度な思考と基本的技術を学ぶ科目は、3年次を中心にして、講義、演習、学内実習として配置しています。
4. 専門分野の発展に寄与する科学的思考や倫理観を獲得するための診療放射線学研究は3—4年次を中心に、診療放射線技師としての知識、技術、態度を統合して臨床実践を学ぶ臨床実習は4年次に配置しています。

■ 臨床工学科 カリキュラム・ポリシー

臨床工学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

1. 幅広い知識と教養の修得、豊かな人間性を身につけるための教養科目群と共通基盤科目群に加え、医療専門職として必要な医学・工学の基礎知識を修得するための専門基礎科目群を中心に学ぶとともに、臨床工学の概要を学ぶ専門科目を必修科目として1年次に配置しています。
2. 医療者としての基盤を形成するため、生命の尊厳及び倫理観への認識を深めるための教養科目群の「生命倫理学」に加え、臨床工学に必要な臨床医学と理工学の基礎知識を修得する専門基礎科目群と、両者を有機的に統合して医療機器に応用するための知識・技術を修得するための専門科目群を中心に必修科目として2年次に配置しています。
3. 生体医工学の理論・知識・技術を統合させ、医療技術の提供に必要となる実践的な知識と技術を修得するための専門科目（講義・学内実習）と、チーム医療の一員としての臨床工学技士の責任と役割の理解を深め、医療者としての自覚を身につけるための専門科目「臨床実習」を3年次に配置しています。
4. 修得した知識と技術を整理し、連携させることにより総合的な理解を深め、医療分野における問題の発見と創造的な研究を行う能力、問題解決能力を修得する「卒業研究」を4年次に配置しています。

■ リハビリテーション学部 カリキュラム・ポリシー

リハビリテーション学部では、ディプロマ・ポリシーに沿って、その専門性に応じ、次の趣旨を盛り込んだ科目によってカリキュラムを編成しています。特に、多職種連携の基礎となる科目と、国際生活機能分類（ICF）の概念に基づくリハビリテーションに対応できるよう授業科目を工夫しています。

1. 豊かな教養、コミュニケーション能力の育成、人工知能や情報社会に対応する能力、人間を多側面から理解するために、『人と社会及び自然の理解』と『情報と言語の理解』に区分した教養科目を配置しています。
2. 『大学の学びの基盤』として、学び方入門、専門への導入、多職種理解と連携の科目を配置しています。
3. 人間の運動や行動を解剖学、生理学、運動学、心理学、発達学的観点から分析・考察でき、リハビリテーション専門職として必要な医学的知識を学ぶための科目を配置しています。
4. リハビリテーションにおける専門領域に必要な基本的知識と技術を身につけるため、各学科に『評価学』『治療学』『支援

学』の該当科目を配置しています。

- 保健医療チームとして、連携・協働を図りながら、社会参加、健康増進、障害予防の見方ができるように、「チーム医療とリハビリテーション」、「地域リハビリテーション学」を配置しています。
- 学内で学んだ知識と実践との経験を統合できる機会として、対象者との人間関係の構築、施設内外における多職種連携の構築を経験し、将来の人間像を形成する場として、『臨床実習』を配置しています。
- 専門職として基盤となる科学的思考や自己研鑽力を身につけるため、研究の基礎につながる科目を配置しています。

■ 理学療法学科 カリキュラム・ポリシー

理学療法学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- 幅広い教養と、専門に必要な物理学などの自然科学の科目、大学での学び方を1年次で学びます。
- 理学療法に必要な基礎医学と臨床医学などの専門基礎科目及び語学を1年次から2年次にかけて学ぶように配置しています。
- 理学療法の専門科目は、全学年で学べるように、評価学及び総論を1・2年次に、疾患別理学療法、及び分野別の理学療法を2・3年次に、臨床実習を順次内容が豊かになる形で3・4年次に配置しています。
- 自らの問題意識をもち、科学的手続きをもって解明していく機会として「理学療法研究論」、「事例研究法」、及び「卒業研究」を3・4年次で学べるように配置しています。

■ 作業療法学科 カリキュラム・ポリシー

作業療法学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。教養科目、専門基礎科目で修得した知識や技術を基に、専門科目でさらにそれを拡大していく編成としています。

- 幅広い教養を修得するため、教養科目群、共通基盤科目群を中心に学びつつ、医療専門職としての意識を高めるための専門基礎科目群に加え、「作業療法学概論」、「基礎作業学」といった専門科目を必修科目として1年次から配置しています。
- 基礎医学系及び臨床医学系の専門基礎科目を学び、作業療法の専門科目として『作業療法評価学』、『作業療法治療学』区別の科目を学ぶことで具体的な作業療法の知識の輪郭が理解できるよう段階的に配置しています。なお、後期の「見学実習」によって実践的な知識への導入を図ります。
- 作業療法の専門科目の学びから、より実践的に考えられるよう「作業療法理論」、「作業療法リーズニング」、「日常生活活動学」を深く学びます。また、「作業療法基礎実習Ⅰ」、「作業療法基礎実習Ⅱ」、「総合臨地実習Ⅰ」「総合臨地実習Ⅱ」でこれまでの学習効果が確認できる配置とします。
- 論理的な思考、問題解決能力を高めるために、「作業療法学研究法演習」、「事例研究法」、「卒業研究」を3・4年次で学ぶことができるよう配置します。

■ 言語聴覚学科 カリキュラム・ポリシー

言語聴覚学科では、ディプロマ・ポリシーに沿って、以下のようにカリキュラムを編成しています。

- 大学で学ぶことの意味と学習の姿勢、地域への貢献、研究の姿勢、並びにコミュニケーション・スキルの向上、その他の言語聴覚士の役割について、教養科目、専門基礎科目、1年次の専門科目で学びます。
- 人間の尊厳並びに権利と障害、国際生活機能分類（ICF）の理解、個性の基盤である生活と地域・社会参加をそれが展開される地域そのものについて、1年次から2年次にかけて専門基礎科目、専門科目により理解を深めます。
- 言語聴覚機能の評価、機能回復訓練、機能回復の限界と障害を持ちながら地域・社会に参加するための支援並びに街づくりの実践について、2・3年次の専門科目に地域参加系科目を配置して学習します。
- 臨床実習は、学んだ知識を確認し、問題解決能力、創造力、実践力、応用力が育つよう1年次から4年次に配置します。

アドミッション・ポリシー

保健科学部

豊かな教養と人間愛を兼ね備えた質の高い保健医療専門職を養成する保健科学部では、次のような学生を受け入れます。

1. 人に対する関心や思いやりがあり、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2. 保健医療専門職になる意志を持ち、積極的に学ぶ意欲を持つ人
3. 入学後の修学に必要な高等学校で学んだ基礎学力を有し、基本的な生活態度が身についている人
4. 問題解決のために、協調性をもって最善を尽くす熱意のある人
5. 生命科学や医療専門職を生かし、多様な分野に貢献しようとする意欲のある人

● 看護学科

人々の健康生活を支援し、命と向き合う看護職を養成する看護学科では、次のような学生を受け入れます。

1. 人が好きで、人を思いやり、人を援助することに労力を惜しまない人
2. 相手の立場に立って物事を考えることのできる人
3. 看護学に興味をもち、学ぶ意欲にあふれ、主体的に学習する姿勢のある人

● 検査技術学科

生命の尊厳を理解し、高い倫理観を備えた医療職を養成する検査技術学科では、次のような学生を受け入れます。

1. 人を思いやる心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2. 臨床検査に関する技術と知識を学び、医療に貢献しようとする意欲のある人
3. 協調性があり、独創性と粘り強さで問題を解決しようとする人
4. 生命科学や検査技術学を生かし、多様な分野に貢献しようとする意欲のある人

● 放射線学科

多職種との協働と連携からなるチーム医療を推進できる高度医療技術をもった医療職を養成する放射線学科では、次のような学生を受け入れます。

1. 人に関心を持ち、人を思いやる心、労る心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2. 社会に対し積極的に関わり、コミュニケーションを大事にできる人
3. 診療放射線技師になるための意思を持ち、自ら学ぶ意欲、挑戦する意欲を持ち、粘り強く主体的に学習する意志のある人
4. 生命科学や放射線科学を生かし、多様な分野で貢献しようとする意欲のある人

● 臨床工学科

積極的に社会参加できる精神を培うとともに、生命倫理や人間に対する尊敬心が幅広く持てるよう、人間形成を重んじた医療職を養成する臨床工学科では、次のような学生を受け入れます。

1. 人を思いやる心、労る心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2. 臨床工学に関する知識と技術を深く学び、チーム医療及び医療の質の向上に貢献しようとする意欲のある人
3. 社会に対し積極的に関わり、コミュニケーションを大切に、相互支援に努めることができる人
4. 生命科学や臨床工学を生かし、多様な分野で貢献しようとする意欲のある人

リハビリテーション学部

地域の医療・福祉と生活上の困難を抱える障害を持った人々の自立及び生活の質の向上を支援する専門職を養成するリハビリテーション学部では、次のような学生を受け入れます。

1. 人に対する関心や思いやりがある人
2. 豊かな人間性、柔軟性、協調性を備え、他者との連携を保つことができる人
3. 物事に対して自ら積極的に学ぶ姿勢・態度を有している人
4. 入学後の修学に必要な、高等学校で学んだ基礎学力を有している人
5. 保健・医療・福祉に対して強く関心を持ち、社会貢献しようとする意欲のある人
6. 基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配ることができる人

● 理学療法学科

身体に障害を持った方々を援助する医療職を養成する理学療法学科では、次のような学生を受け入れます。

1. コミュニケーション能力を持って他者に共感でき、人間関係を作ることができる人
2. 人の運動・動作やその障害に関心がある人
3. 問題解決のために誠実で、常に協調性をもって最善を尽くす熱意のある人
4. 理学療法士になる意志を持ち、積極的に学ぶ意欲を持つ人

● 作業療法学科

生活や社会参加に問題を抱えた方々を援助する医療職を養成する作業療法学科では、次のような学生を受け入れます。

1. 他者との関わりを大切に、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2. 人の健康や生活、社会の動きに関心がある人
3. 問題解決のために、粘り強く努力を続けることのできる人
4. 作業療法士になる意志を持ち、積極的に学ぶ意欲を持つ人

● 言語聴覚学科

コミュニケーション能力に問題を抱えた方々への援助者としての医療職を養成する言語聴覚学科では、次のような学生を受け入れます。

1. 社会の出来事に興味を持ち、思いやりと熱意を持って社会貢献しようとする人
2. 未知の課題、新しい課題にひるまず向き合い、解決しようとする意欲を持つ人
3. 他者と適切にコミュニケーションをとり、協調して行動できる人
4. 言語聴覚士になる意志を持ち、自分の能力を高め続けるための努力を惜しまない人

| 建学の精神

*Paz*は平和を意味するポルトガル語、パース(*Paz*)に由来します。

同時に*Paz*にはこの3文字を頭文字とする*Pessoa*(個性)、*Assistencia*(互助)、*Zelo*(熱意)の意味が与えられています。

Paz (平和) 平和で公正な社会の発展

Pessoa (個性) 個人の尊厳と自己実現、

Assistencia (互助) 多様な人々の共存と協調、

Zelo (熱意) 知の創造、

への貢献